



大分県議会議員 2025年 冬号
県民クラブ会報「県民ひろば」別府市版

原田たかし 会報

教育・福祉・労働

子どもたちが「生まれてきてよかった」、
高齢者の方々が「長生きしてよかった」と
思える社会を実現するために。

大分県議会議員 原田 孝司

発行責任者：大分県議会・県民クラブ 原田孝司

連絡先：別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所 TEL・FAX 0977(25)0011 E-Mail harada@ctb.ne.jp

2024年 大分県議会 第4回定例会行われる 原田、一般質問に登壇



皆様方には、健やかに新年をお迎えのことと存じます。

本年も皆様方にとって幸多き一年となりますよう御祈念いたします。

さて、11月27日(水)から12月13日(金)にかけて、大分県議会第4回定例会が開催されました。

今回、台風10号や大雨被害の復旧費などを盛り込んだ2024年度一般会計補正予算案(補正額99億5,776万7千円)など13議案が上程されました。

補正の主な内容は、8月の台風10号で被災した農林水産施設などの復旧と防災機能強化の事業費。7月の大雨で被災した三郎丸橋(日田市)の架け替え工事費等です。

その他、マイナンバーカードと運転免許証を一体化する手数料条例の改正案、6月に県立農業大学校が出荷した生乳に洗浄水が混入した問題で1,491万8千円を賠償する案などです。

また、12月6日(金)には、国の補正を受け入れ、物価高対策を中心とする2024年度一般会計補正予算案(補正額62億5,607万4千円・開会日に上程された補正を含めた累計7,171億6,135万9千円)や職員給与に関する条例の一部改正案など2議案が追加上程され、最終日に全て可決されました。

今定例会では、原田も一般質問に登壇しました。【詳細は2・3面に掲載】

2024年を振り返って

Looking Back on 2024

2024年は、元旦の能登半島地震から始まりました。石川県輪島市などで震度7を観測。多数の家屋倒壊、土砂災害等により甚大な被害が発生。電気、ガス、上下水道等のライフラインへの被害、道路、鉄道等の交通インフラにも甚大な被害が生じ、住民生活や経済活動にも大きな支障が出ています。一日も早い復旧復興を祈るばかりです。

この地震は他人事ではありません。政府による南海トラフ地震の被害想定によると、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度7となる可能性があるほか、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波の襲来が想定されています。非常持出袋や家具の転倒防止など普段からの準備が大事です。

社会面では、離婚後も父母双方が子どもの親権を持つ「共同親権」の導入、「闇バイト強盗事件」などの社会不安、与野党が伯仲状況となった衆議院議員選挙、20年ぶりの新紙幣発行などもありました。

世界を見ると、ロシアによるウクライナ侵攻やガザ地区での戦闘は未だ続いています。米国大統領選挙結果は日本にどのような影響を及ぼすのでしょうか。

他方、ドジャースの大谷翔平選手やパリ五輪での日本選手の活躍は、明るいニュースとして連日、日本中が歓声に包まれました。

2025年、今年も原田は安心して生活できる県政の発展に向け取り組んでいきます。

折り鶴に込めた願い

原田孝司のシンボルマークは平和を象徴する折り鶴です。
背景には、教育・福祉・労働を表現する虹がかかっています。

